

秋田ノーザンハピネッツ SDGsの取り組みについて



秋田ノーザンハピネッツ株式会社

< Point 1 >

秋田ノーザンハピネッツはSDGs達成に向けた活動を始めます。

< Point 2 >

SDGsの達成に向け、秋田県内に新たに常設の子ども食堂を新設します。

< Point 3 >

秋田ノーザンハピネッツとともに、
SDGsの達成に向けて活動してくださるパートナー企業さまを広く募集します。

< Point 1 >

秋田ノーザンハピネットの SDGs達成に向けた活動について

秋田ノーザンハピネッツ県民球団宣言

私たちは、秋田ノーザンハピネッツが秋田のかけがえのない存在になることを目指し、ここに「秋田ノーザンハピネッツ県民球団宣言」を行います。



2011年10月15日に県民球団宣言をして以来、
秋田ノーザンハピネッツは秋田に密着した活動をおこない、
秋田県民の皆さまとともに歩んできました。

そしてこれから、より良い「秋田の未来」を築くために、新たな取り組みを始めます。



課題先進県の

プロスポーツチームだからできる
ここにしかない取り組みで
未来を築こう。

秋田ノーザンハピネッツはみなさまと協力しながらSDGsの達成に向け、尽力していきます。

そして、その活動プロセスにおいて、“より良い秋田”のまちの今後のあり方を考えていきながら、地域や目の前の人々の課題解決に貢献していくことにより、秋田及び日本の未来を担う子どもたちが輝ける社会を築いていきます。



1. 自社としての取り組み

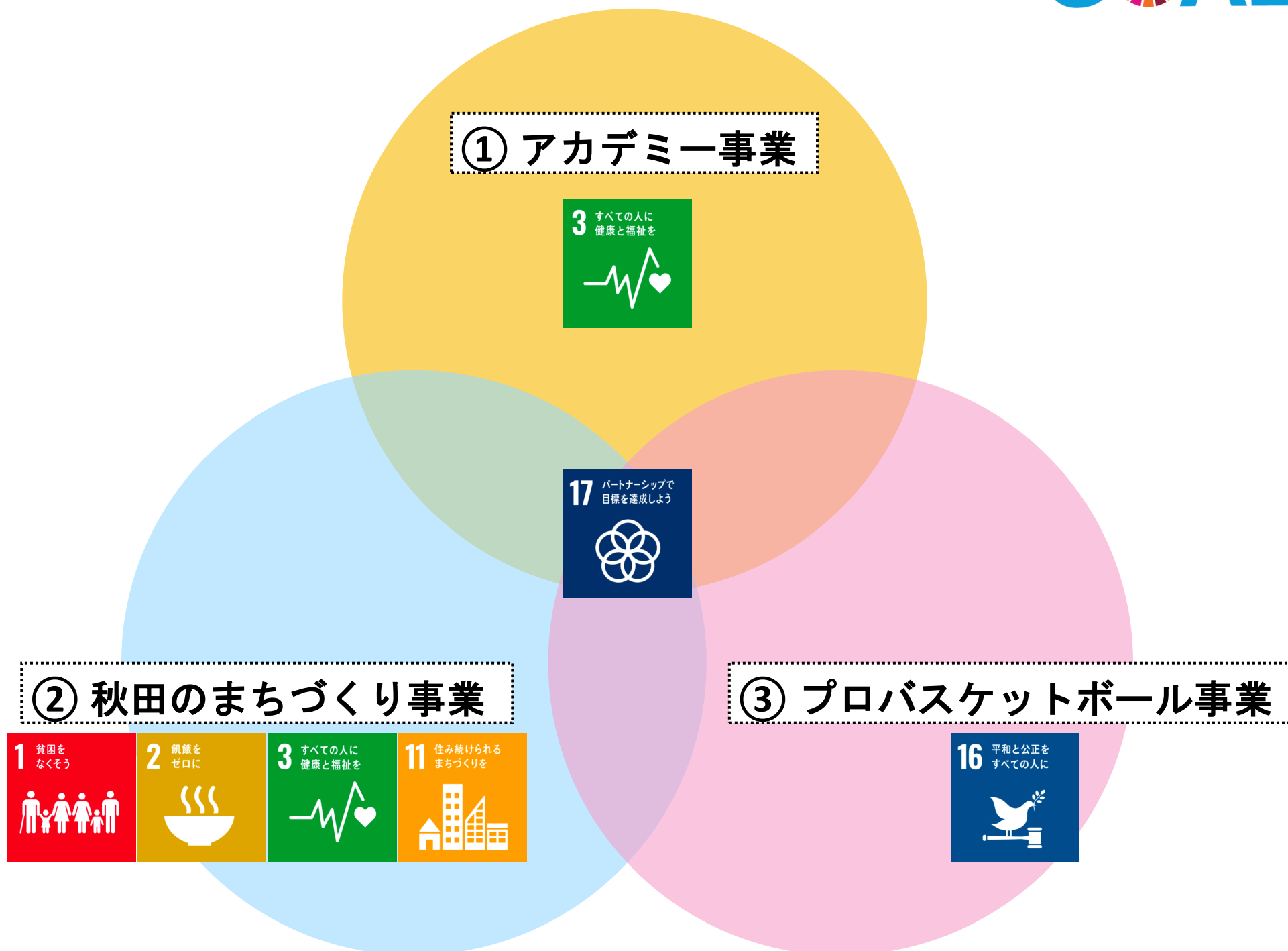


2. パートナー企業みなさまとの取り組み



秋田ノーザンハピネッツが「**自社としての取り組み**」で
達成を目指すSDGsは次の6つの目標です。





アカデミー事業では、あらゆる年代の子どもたちに
スポーツを通じ、健康づくりを行っています。



※写真は一部抜粋

現在行っているアカデミー事業： バスケットボール、チアダンス、ラート、ジュニアスポーツ教室

子どもたちのために秋田の未来を築くうえで、秋田の「まちづくり」にも貢献していきます。

< 地域コミュニティ活動 >

227回

※コロナ禍前の2019年7月1日～2020年4月15日の活動回数



※写真は一部抜粋

16 平和と公正を
すべての人に



スポーツマンシップに則った試合が行われるようクラブとして尽力します。
また、誰もが安心して楽しむことができるアットホームな空間づくりをおこないます。



< Point 2 >

**秋田ノーザンハピネッツによる
常設の子ども食堂の新設について**



秋田ノーザンハピネットのこども食堂

みんなのテーブル



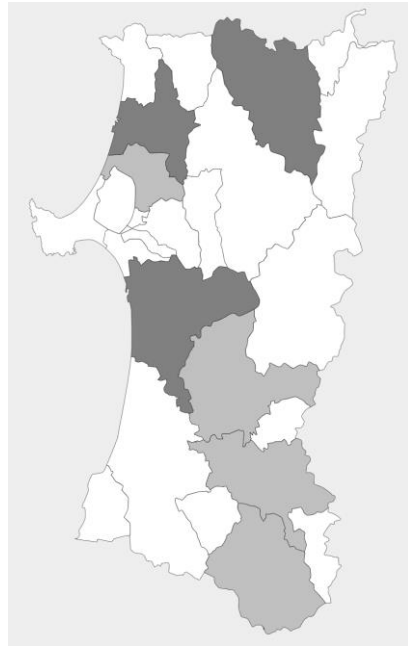
<コンセプト>

『みんなのテーブル』はテーブルを「みんな」で囲み、食事をする事で、こどもたちの「おいしかった!」「たのしかった!」の笑顔を作り、居場所となることを最大の目的としています。

このテーブルから、未来を担うこどもたちを中心とした地域コミュニティが生まれ、大人たちのさまざまなカタチの支援が産み出されていくことを願っています。

みんなのテーブルは「みんな」で育むテーブルです。

＜ 秋田県内の子ども食堂の実施状況 ＞



＜ 秋田県内の子ども食堂の数 ＞

21カ所

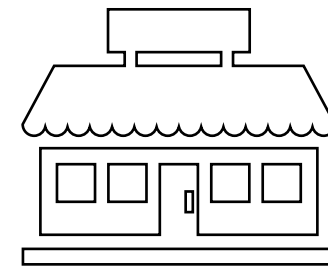
..

＜ 秋田県内の常設の子ども食堂の数 ＞

0カ所

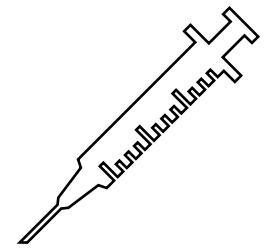
出典：秋田県調査『秋田県内の子ども食堂一覧（令和2年2月末実施）』

＜ 子ども食堂の会場がワクチン接種会場に ＞



子ども食堂として
利用していた公的施設

コロナの影響



ワクチンの接種会場となり
使用できない状況に

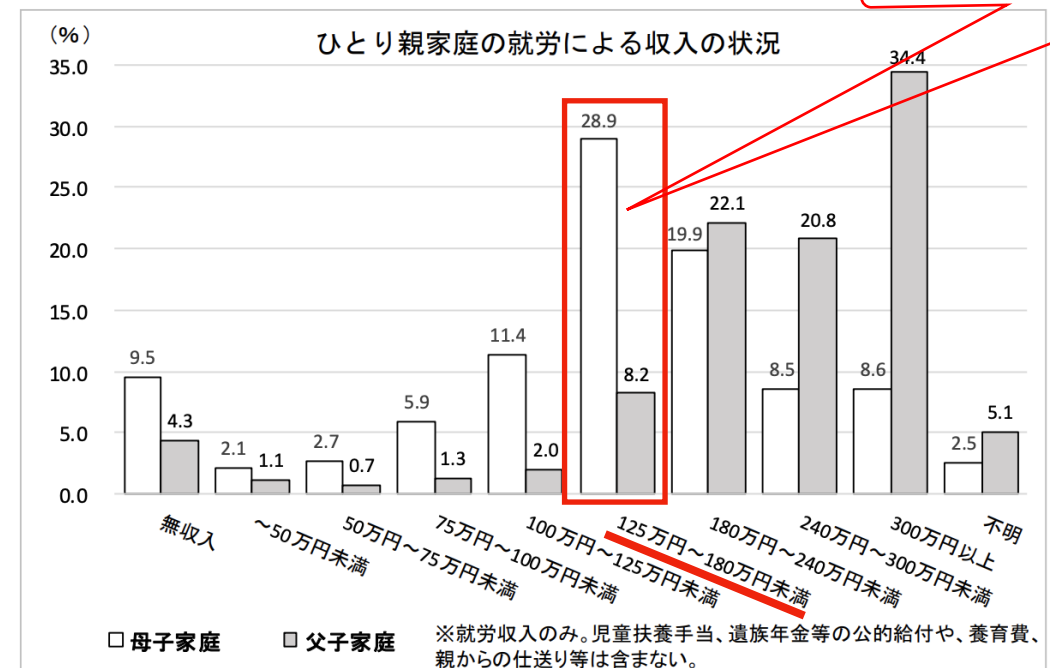
出典：秋田県/秋田市、秋田県社会福祉協議会、NPOへのヒアリング

＜ 秋田県内のひとり親家庭の子どもの数 ＞

16,689人

＜ ひとり親家庭の就労による収入状況 ＞

母子家庭のボリュームゾーンは
年収125万円～180万円未満



出典：秋田県（令和3年3月）『第2次秋田県子どもの貧困対策推進計画』

出典：秋田県（令和3年3月）『第2次秋田県子どもの貧困対策推進計画』

前ページの課題

- ・子ども食堂の足りなさ
- ・新型コロナウイルスの影響
- ・困っている人たちの増加
など

子ども食堂への
ネガティブイメージ

子ども食堂の
認知度の低さ



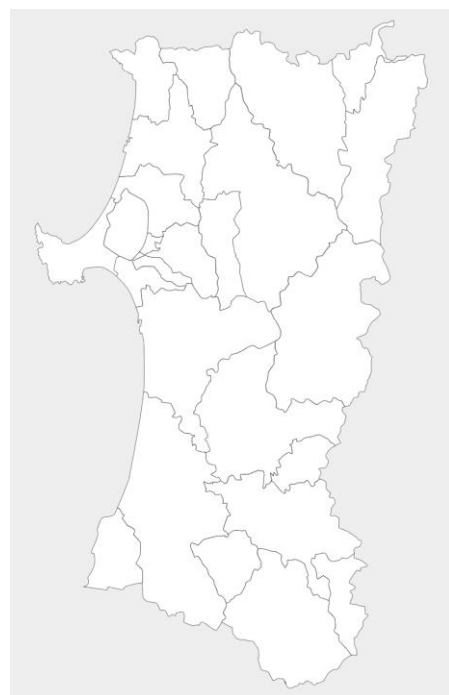
秋田ノーザンハピネッツのこども食堂

みんなのテーブル

上記の解決策の1つとして、常設の子ども食堂を新設し、運営します。

また運営に際しては、秋田県庁・秋田市役所・社会福祉協議会・NPOなど、今まで活動をされてきた専門機関・組織と連携しておこないます。これにより未来を担う子どもたちを、地域社会全員で育むことができるスキームをつくります。また活動のプロセスにおいて、子ども食堂のイメージを、明るく・楽しい・安心できる場所というイメージにアップデートし、諸々の課題の解決ならびに改善に寄与します。

みんなのテーブルは、
秋田県内で初めて、かつ、
プロスポーツチームとしては初となる
常設の子ども食堂です。



秋田県内初の常設の子ども食堂

※2021年8月2日現在



日本のプロスポーツチームとして
初の常設の子ども食堂

※2021年8月2日現在

秋田ノーザンハピネッツの子ども食堂
＜みんなのテーブル＞



① 食材

できるだけ農家やスポンサー企業
などからの食品提供で調達。

② 人材

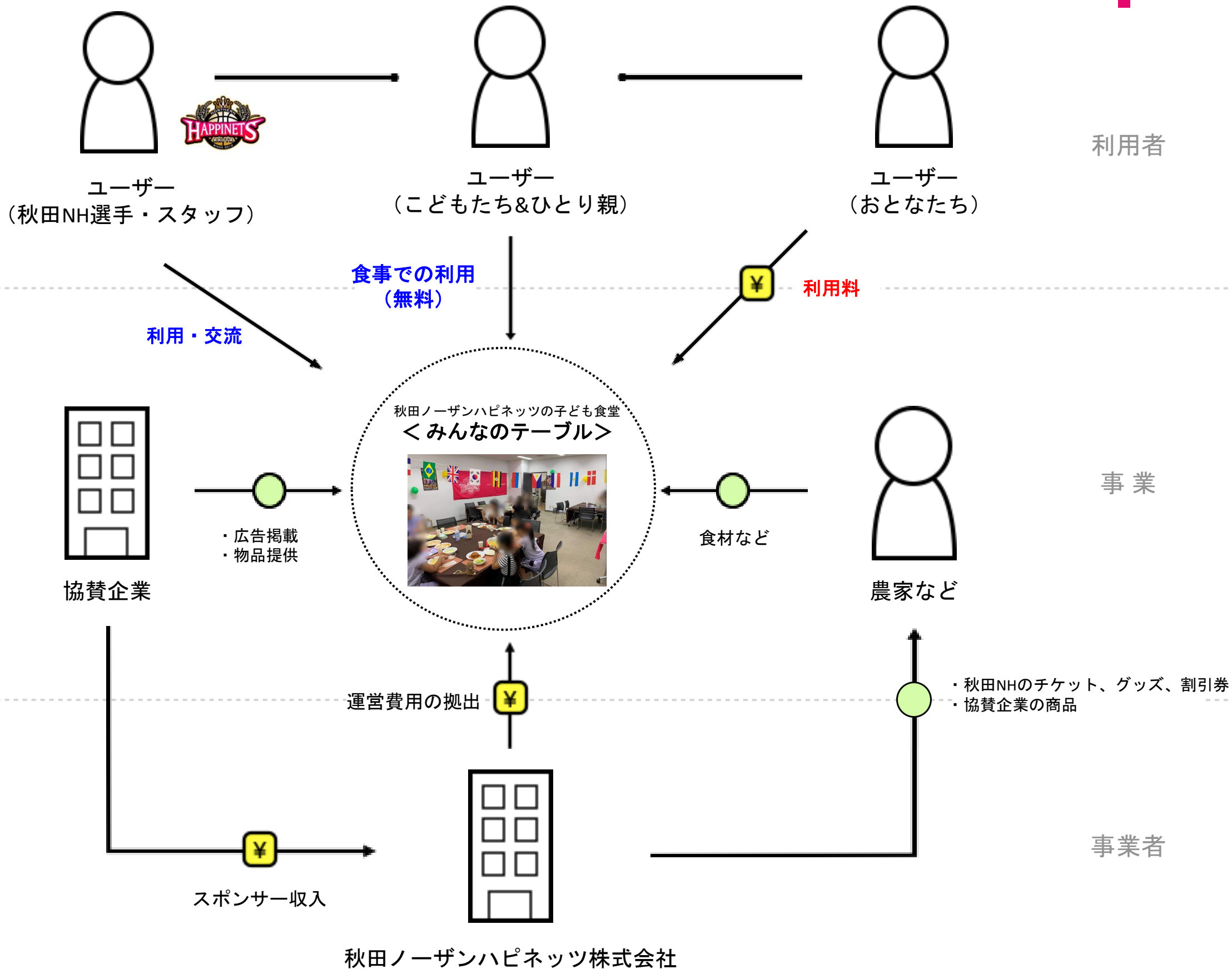
管理栄養士を常設。
サポートスタッフとして大学生などのボランティア
の募集も行う予定。

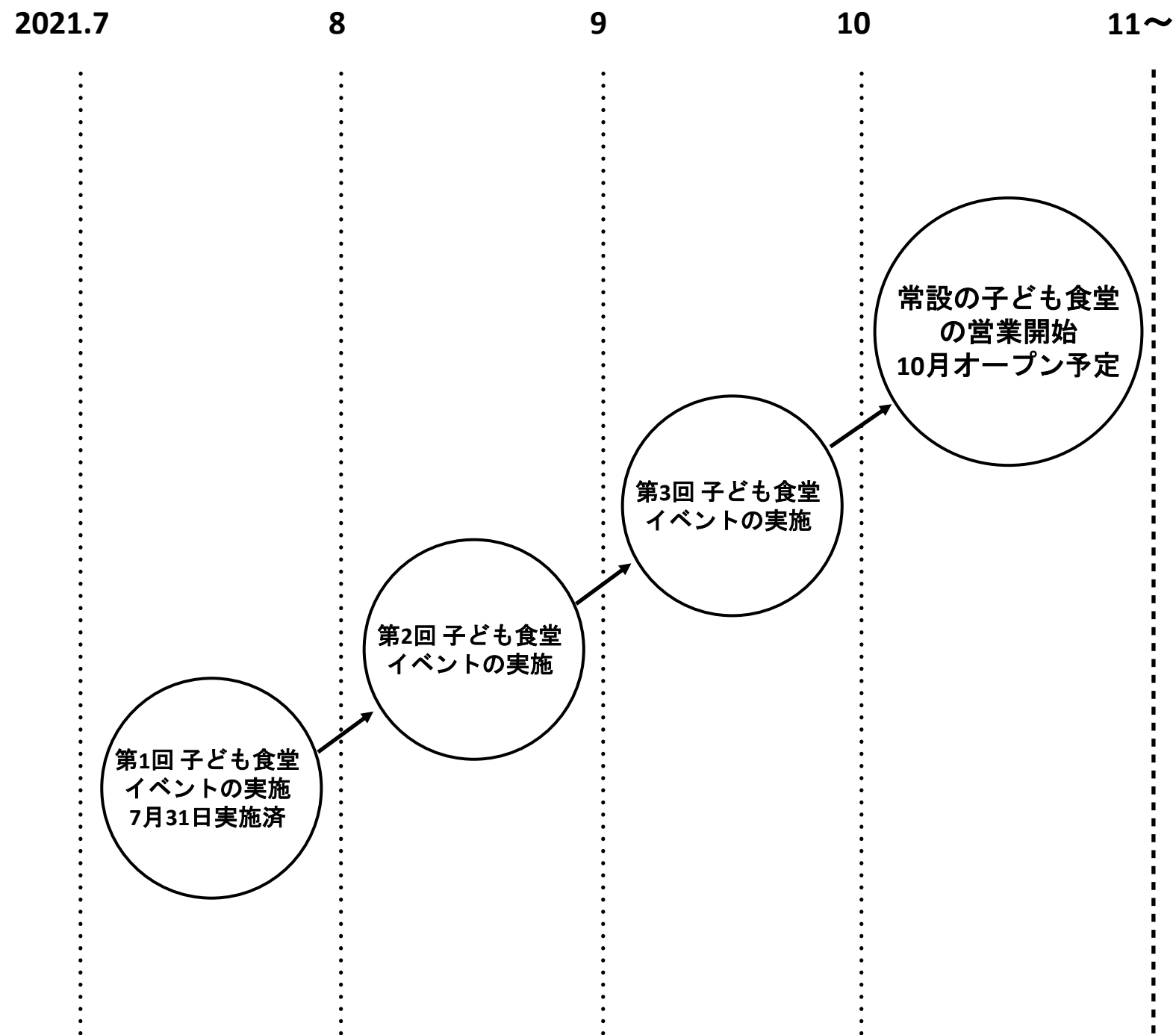
③ 資金

秋田ノーザンハピネッツからの拠出、助成金（休眠預金等活用事業）、
企業からのスポンサードやファンクラブ会費で運用。

④ 外部組織との連携

子ども食堂の企画・運営経験のあるNPO、行政、社会福祉協議会と連携。





常設の子ども食堂については2021年10月ごろからの営業開始を見込んでいます。

また、新型コロナウイルスの影響も考慮しながらになりますが、7月・8月・9月それぞれで1回ずつ子ども食堂を実施する予定です。ちなみに第1回となる7月31日の子ども食堂は39名参加の盛況にて終わることができました。



今回の子ども食堂の取り組みは「休眠預金等活用事業」の実行団体として採択されています。

< Point 3 >

**秋田ノーザンハピネッツとともに
SDGsの達成に向けて
活動してくださる企業さまの募集について**

秋田ノーザンハピネッツが広く募る全国の
「パートナー企業みなさまとの取り組み」で
達成を目指すSDGsは次の17個の目標です。





＜秋田ノーザンハピネッツの強み・リソース＞

秋田県内
ネットワーク

顧客基盤

発信力



＜SDGsの5つのP＞

＜SDGs 17の目標＞



SDGsの達成に向けて取り組んでいる企業・NPO/団体・個人のみなさまに注目し、みなさまにクラブを使っていただくことで活動の可能性を広げていただきたいと思います。秋田ノーザンハピネッツは事業の性質上、今までもさまざまな方々にサポートいただきながら活動してきました。その結果、公共性の高い存在になっており、産・官・学のネットワークをはじめ、たくさんのお客さまとの繋がり、そして秋田県内での高い認知度があります。

多様なみなさまと協働することで、秋田ノーザンハピネッツはさらに社会に貢献をしていきます。

**秋田県は「課題先進地域」です。
他地域の未来像が秋田にはあります。**

< 秋田県が抱える社会課題 > ※一部抜粋

人口減少率ワースト

高齢化率ワースト

少子化の進行

脳血管疾患率
がん死亡率の高さ

平均健康寿命の低さ

課題先進地域である秋田県で、弊社のリソースを活用しながら、社会課題の解決やSDGsの達成を目指した先駆的な取り組みをともに行っていくパートナー企業さまを広く募集いたします。



= 秋田県・日本の未来を育む先端的な取り組み